

本当の理解のために

述べたような新しい方法論は複雑すぎる。「絵に描いた餅」ではないか？その側面はある。しかし、、、

- 方法論の吟味とリスク評価のプロセス自体が、重要なコミュニケーション。

合意できる部分と、合意できない部分の仕分け
データがある部分と、ない部分の仕分け

用いる方法論は、何を評価しているのか？
問題の本質は何か！！（何を守りたいのか？）

- 本質を反映していない内容を伝えても意味はない。
手続きの解説になっていないか？
むしろ、問題の理解の妨げになっているのでは？